

多文化共生としての地域日本語教室
——地域日本語教室を舞台とした学習者とボランティアの相互行為——

社会学部現代社会学科 2222042

指導教員 川瀬 由高

氏名 齊藤 青波

要旨

本研究は、東京都の地域日本語教室における日本人ボランティアと在日外国人学習者との交流を対象とし、地域日本語教室という場がもつ社会的・文化的意義を文化人類学的視点から明らかにすることを目的とする。地域日本語教室は、外国人に対して日本語を教える教育の場であると同時に、地域日本語教室へ異なる期待をもつ人々が出会い、物語を紡ぐ場でもある。本研究では、筆者自身がボランティアとして参加したフィールドワークの経験をもとに、教室における相互行為の観察と参加者への聞き取りを通して、地域日本語教室という場がどのように成り立ち、どのような特性を持っているのか、どのような相互作用が行われているかについて記述した。

地域日本語教室は、外国人にとって日本語習得の場であり、日本人にとっては社会参加や経験形成の場として機能している。本研究では、東京都に開かれた地域日本語教室である浅草日本語道場において7月から11月までのボランティア経験を通じて得た参与観察と聞き取りの結果をもとに、教室における相互行為や参加動機の違いを分析した。その結果、支援と学びの非対称的關係の中で、双方が相互に影響を与えながら関係を築いていることが明らかとなり、地域日本語教室が異なる思惑を持つ人々が交錯する、人と環境が相互に関連している多元的な場として機能していることを示した。

第1章では、研究の背景と問題意識を整理し、地域日本語教室が単なる日本語教育の場にとどまらず、異なる文化的背景をもつ人々が出会い関係を築く場であることを指摘する。また、研究の目的・方法、先行研究との位置づけを明示し、本論全体の構成を示す。

第2章では、地域日本語教室の背景について、在留外国人増加の背景やこれまで日本で行われてきた対外国人向けの政策の歴史と推移について、また地域日本語教室の社会的意義について触れる。

第3章では、筆者が参加した浅草日本語道場でのフィールドワークをもとに、外国人と日本人の相互行為や参加動機、活動の熱量の差に注目し、現場で生成される関係性の実態を記述・分析する。

第4章では、調査結果を踏まえて地域日本語教室における相互行為の実態や地域日本語教室を取り巻く現状と展望および課題を考察し、終章では、本研究の成果をまとめ、地域日本語教室は、異なる文化的背景を持つ人々が交流し、多元的で動的な性質を持つことを明らかにする。